

第2回秋田県公立高等学校入学者選抜に係る
検討委員会 議事録（概要）

秋田県教育委員会

第2回秋田県公立高等学校入学者選抜に係る検討委員会議事録（概要）

- 1 期 日 令和元年8月26日 月曜日
- 2 場 所 秋田県地方総合庁舎6階 総601会議室
- 3 開 会 14時00分
- 4 閉 会 16時00分
- 5 出席委員 高橋 秀晴 田仲 誠佑 石郷岡仁司 野村 重公
稲荷 一清 鈴木 康 安田 浩幸 菅原 勉
檜尾 尚樹 難波 文彦 古谷 昌規 石嶋勝比古
- 6 教育庁（事務局）出席者
義務教育課長 石川政昭 高校教育課長 伊藤雅和
保健体育課長 高橋周也 義務教育課副主幹 畑 朋幸
高校教育課副主幹 荒川正明 高校教育課副主幹 藤澤 修
高校教育課主任指導主事 勝又貞臣 高校教育課主任指導主事 石井むつみ
高校教育課指導主事 竹村竜祥 高校教育課指導主事 根守 潤
高校教育課指導主事 柏谷浩樹
- 7 次第
 - (1) 開会
 - (2) 県教育委員会挨拶
 - (3) 報告
 - ①前回の検討委員会の協議内容について
 - ②他県の状況について
 - (4) 協議
 - ・現行の前期選抜と一般選抜を同一日に実施した場合のメリット・デメリットについて
 - ・2次募集の在り方も含めた入試日程について
 - (5) その他
 - (6) 閉会

第2回秋田県公立高等学校入学者選抜に係る検討委員会

協議の要旨

○委員からの意見

- ・ 現行では、前期選抜でチャレンジして不合格だった場合、一般選抜では学校を変えて受検するチャンスがあるが、前期選抜と一般選抜を同一日に実施するとそのチャンスがなくなるのではないかと。
- ・ 前期選抜と一般選抜を同一日に実施するとなった場合、各選抜で明確な基準がないと、生徒や指導する教員にかなりの迷いが生じるのではないかと。
- ・ 現行の前期選抜と一般選抜を同一日に実施した場合、前期選抜と一般選抜で受検する学校を変えられるメリットはなくなるが、現在前期選抜で行っている、特色をもった生徒を選抜するという入試制度の良さは特色選抜の中で残るといえることであれば、大きなデメリットはないのではないかと。
- ・ 学力検査の結果が思わしくなかった場合、どの程度のデメリットがあるのか、という危惧がある。
- ・ 今よりも学力検査の比重が高まる雰囲気はあると思う。
- ・ 「A高校に入って部活動をやりたい」と思っているが、学力的な問題から「B高校にしたほうがいい」となると、特色化が薄くなるように思う。また、選抜区分を合格通知に明記することで「自分は特色選抜で入ったから、部活動を頑張らない」というような、高校に入ってからからの生徒のモチベーションにもつながると思う。
- ・ 1校しか受けられないのなら、強い希望をもった生徒が受検に来るのではないかと期待が高校側にはある。その一方で、仮に高校入学後に部活動で挫折してしまう生徒がいた場合のことを考えると、選抜区分を合格通知に明記する必要はあるのだろうかと思う。
- ・ 特色選抜と一般選抜を同じ日に実施すると考えると、面接の日程が厳しくなるのではないかと。
- ・ 中学校において、成績だけ良ければいいという指導はしたくない。それを考えると、面接は非常に効果的であると思う。面接があることによって生徒が変わり、さらに指導も充実したものになる。面接の受け方などを指導していくことによって、教師が生徒を応援し受検に向かわせるという、一つのいい文化が出来ていると思っている。
- ・ 高校の先生方の中には、現行の前期選抜は、部活動で有望な生徒がメインであると思っている先生がいるかもしれない。中高のスムーズな学力の接続という観点からも、前期選抜と一般選抜を一本化するということであれば、少なくとも高校側はこれまでの前期選抜のイメージを変えていかなければならないと感じている。
- ・ 1校しか選べないということは、頑張れる生徒は最後まで頑張れると思うし、特色枠があれば一つのチャンスになり得るので、一本化がいいのではないかと。